

災害・緊急のときにわたしたちができること



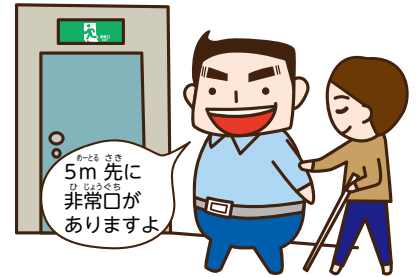
警報や避難のアナウンス

聴覚障がいのある人は、災害時や緊急時に流される警報やアナウンスを聞くことが難しいです。筆談や口の動きなどで現在の状況や避難指示などの情報を伝えましょう。



周囲の状況が見えない

視覚障がいのある人は、災害時や緊急時に流される警報やアナウンスを聞くことはできても、周囲の状況を目で確認することが難しいです。周囲の状況や非常口の場所などを確認して知らせましょう。



協力を申し出よう

災害時や緊急時、障がいのある人が一人で行動するのは普段よりも難しくなります。できるだけ一緒に行動するようにしましょう。また、介助者がいる場合でも、自分にもできるサポートはないかと、協力を申し出ましょう。場合によっては、周囲の協力も求めましょう。



状態の変化に気づく

内部障がいのある人は、病状などが急変することがあります。早目に気づいて、救急車を呼んだり、本人がかかりつけの医療機関などへの連絡を希望する場合は協力したりしましょう。



心配な気持ちを落ち着かせる工夫を

特に、精神障がい、知的障がい、発達障がいのある人などは、災害時に不安などからパニック状態になってしまふことがあります。まずは「大丈夫ですよ」と声をかけるなどして相手の気持ちを落ち着かせ、状況を知ることによって不安がやわらぎます。その際、一度に多くの内容を伝えず、一つのことを簡単に伝えるようにしましょう。

